

二松學舎 松苓會報



CONTENTS

- P2 卒業生の皆さんへ
二松學舎松苓会長・二松學舎大学学長
- P3 二松學舎松苓会役員・支部長名簿
- P4 瑞宝中綬章受章 菅根 順之氏
名誉学位 ドナルド・キーン氏・中村文峰氏
- P5 特別功勞賞受賞 末吉 榮三氏
學術文化奨励賞受賞 久米 晋平氏
- P6 平成24年度ホームカミングデー
- P7 平成24年度秀葉会懇親会
- P8 松苓会活性化委員会の進捗状況
『論語』の学校・二松學舎大学漢詩研究会
- P9 卒業生の紹介・「書聖 王羲之」題字書道コンクール
- P10 松苓会各支部活動報告
秋田県支部、宮崎県支部、大分県支部、北海道支部、
静岡県支部、神奈川県支部、宮城県支部、香川県支部、
群馬県支部、埼玉県支部、近畿地区
- P16 柏原市「文化・功勞賞」受賞・寄附者芳名
寄贈図書紹介・編集後記 他

No.48

2013年3月19日

平成24年度 卒業生のみなさんへ



二松學舎大学
学長
渡辺 和則



二松學舎松苓会
会長
神津 賢一郎

〈卒業おめでとうございます〉
学部学位記を授与された皆さん。蛭雪の功なり、卒業の日を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。大変厳しい経済情勢の中、ここにようやく卒業に至ったことは誠に大きな喜びであると思います。

〈卒業すれば同窓会員です〉

二松學舎大学という学び舎で共に学んだ朋友は二松學舎大学同窓会員となります。この同窓会を「松苓会」と呼んでいます。松苓会は卒業された皆さんを迎え、多くの仲間が増えることは大変うれしいことです。心より歓迎申し上げます。

〈松苓会の役割〉

松苓会員相互の励ましと連帯を促

卒業生に贈る言葉―「忘年の交わり」
ご卒業おめでとうございます。今日から二松學舎大学は皆さんの母校であり、皆さんは松苓会（二松學舎大学同窓会）会員です。各都道府県には松苓会支部があり、毎年定期的に支部総会が各地で開かれていきます。皆さんも地元の総会に出席し、先輩方と「忘年の交わり」を結んでください。

さて、就職するということは、与えられた人間関係の中に入るということです。同僚も上役も自分では選べません。中には、内心尊敬できない人たちが居て、強いストレスを受けたり、悔しい思いをさせられたりすることがあるかもしれません。だ

す。活動と共に母校の発展・充実に寄与するという重要な役割を担っています。二松學舎大学は長い歴史と伝統を誇りますが、その伝統を維持し、更に発展を期するために松苓会は支援していかねばなりません。

松苓会は全国都道府県に支部があります。今地方には大学が林立しています。そのような状況の中、二松學舎大学の名を高からしめるのは卒業生の活躍にかかっています。

卒業された皆さんの中には地方に赴任される方もあると思います。赴任された県の支部活動に積極的に参加して若い息吹を吹き込んで活性化して下さいを期待いたします。

〈松苓のいわれ〉

からといって、「酒、知己二逢へバ千鐘モ少シ。話、機二投ゼザレバ半句モ多シ。」（酒は、心の通う人とならばいくらでも飲める。言葉は、心機が投合しない人とは一言も交わす気になれない）という気持ちで、能力の有無や、好き嫌いで相手を選び好みしたりしておれば、自ら世間を狭くすることになります。

虚心坦懐に上司や先輩から学ぶ態度の気持ちが大切です。風雪の中を生き抜いてきた人の言葉には、その人のみが持つ経験の重みがあります。その言葉に素直に耳を傾ければ、種々のことが学べるはずですが、自分の置かれた環境を受け容れ、いかなる環境にも学ぶべきもの

松苓の「苓」は松根に生ずる菌類で「茯苓」の苓。「茯苓」は病を治す貴重な漢方薬。創立者三島中洲先生の詩句「多く茯苓を産して世弊を医やさん」とは「多くの卒業生（茯苓）を世に送り出して乱れた世の弊害を正すであらう。」の意。その創立者の意を汲み、昭和六年、専門学校第一回卒業生を輩出した時、山田準校長が「卒業生は茯苓となつて一世の木鐸として時弊を正し国家を守る人材となれ」と説き、二松の松、茯苓の苓をとって同窓会名を松苓と冠したということです。このように松苓には卒業生に対する期待が込められているのです。このことを念頭において活躍を期待いたします。

があるはずだという、前向きな生き方をとることも大切だと思います。松苓会支部総会での忘年の交わりは、先輩方の言葉に耳を傾け、人生の知恵を汲みとり、自己の人生観に重厚さを加えることのできる良い機会です。卒業生の皆さん、積極的に支部総会に出席してください。先輩方には、後輩とのギャップを埋める多少の努力をお願いします。

若くしては老人と交わり、老いては青年と交わる「忘年の交わり」は母校を動かす原動力です。松苓会活動への積極的な参加をお願い致します。最後に、卒業生の皆さん、「いつでも笑顔、辛いときこそ笑顔」を忘れないで、頑張ってください。

松苓会支部長名簿

平成25年3月1日現在

支 部	氏 名	卒回
北海道	増井 義昭	39
青森	目時 捷三	37
岩手	宮本 義孝	32
宮城	千葉 仁	27
秋田	三齋 基裕	41
山形	形北 博	38
福島	島村 隼	32
茨城	城那 花	36
栃木	木寺 進	49
群馬	馬新 義夫	37
埼玉	玉新 哲	42
千葉	葉町 将	45
東京	井上 和一	42
神奈川	平野 光治	40
山梨	板山 俊介	36
長野	野関 保典	35
新潟	瀧坂 作	42
富山	山小 貴雄	47
石川	川菅 成也	50
福井	井中 佳宏	58
岐阜	竹内 秀人	55
静岡	岡山 昇	40
愛知	知新 平	30
三重	重稲 武嗣	33
滋賀	賀角 良暢	49
京都	都廣 康男	54
大阪	阪浅 資昭	39
兵庫	庫武 徳一	47
奈良	良武 隆	39
和歌山	歌取 明治	47
鳥取	根小 章	38
岡山	山江 仁	39
広島	島小 敬	39
山口	口平 二郎	26
徳島	山俵 賢嗣	40
香川	川大 明子	47
愛媛	媛大 邦美	40
高知	知上 善達	38
福岡	岡坂 彦生	37
佐賀	賀永 道一	36
長崎	崎吉 寛	39
熊本	本黒 孝志	38
大宮	宮塩 文	52
鹿嶋	嶋加 忍	36
鹿嶋	嶋岡 幸	41
鹿嶋	嶋岡 昭	31
鹿嶋	嶋岡 健	38

松苓会役員名簿

平成25年3月1日現在

	氏 名	卒回
顧問	佐古 純一郎	11
〃	佐佐木 鍾三郎	15
〃	雨海 博洋	19
〃	末吉 榮三	12
相談役	水戸 英則	
〃	渡辺 和則	

本部役員(13名)	事務局(1名)	「特」は特別会員
会長	神津 賢一郎	27
副会長	大地 武雄	院博10
〃	廣田 克己	38
幹事	神河 秀春	47
監事	奥井 基繼	院修14
〃	磯水 絵	41
常任幹事	千葉 仁	27
〃	新井 喜義	37
〃	手島 茂樹	特
〃	小林 憲二	38
〃	井上 和男	42
〃	小町 邦明	49
〃	助川 弘	政3
事務局	佐藤 修	41

幹 事(16名)						
北海道	北海道	山崎 郁	紀	裕	36	
北海道	山形	齋藤 花	那	隼	38	
東北	茨城	那花 内	昭	徳	36	
関東	畿兵	庫武 俵	田	賢	47	
近国	山口	俵 大	西	邦	40	
中国	山香	川分 加	茂	忍	40	
四国	国香	大分 金	城	健	36	
九州	沖繩	沖繩 芹	川	哲	38	
沖繩	茨城	葉岡 村	幸	世	37	
	千葉	玉五 十	嵐	男	42	
	埼玉	東京 高	柳	清	44	
	東京	東京 齋	藤	雄	49	
	茨城	城西 園	幸	一	51	
	千葉	葉西 志	隆	士	59	
	埼玉	玉小 西	明	孝	59	
				徳	60	

松苓会からのご案内

- 松苓会定期総会 平成25年6月15日(土)
- ホームカミングデー 平成25年11月2日(土)

菅根 順之名誉教授

瑞宝中綬章受章



平成二十四
年秋の叙勲受
章者が、十一
月三日付で発
令され、菅根
順之氏(二松

学舎大学名誉教授・24回生)が瑞宝
中綬章(教育研究功労)を受章。九
日に伝達式・拜謁が行われました。
瑞宝章は公的業務に長年従事、成果
を上げた人に授与されるものです。

十二月十五日には、二松學舎大学
13階のファカルティー・ラウンジに
おいて、氏が相談役を務める松苓会
東京支部と菅根順之ゼミナール卒業
生との共催で、お祝いの会が開催さ
れました。ゼミ一期生の神河秀春氏
(幹事長・47回)がゼミ生を代表し
てお祝いの挨拶を述べた後、井上和
男東京支部長(42回)により高らか
に乾杯が行われました。

ゼミ生の中には、山形県や、新潟
県、長野県や大阪府などから駆けつ
けた方々もいらっしゃいました。

ゼミ卒業生のほかにも、在学時代
や大学に就職してからも、先生に大
変お世話になったという方々がたく
さんこのお祝いの会に参加され、氏
のお人柄がうかがえました。

菅根順之氏は、現在江東区立の学

校で「学校評議員」として地域教育
に貢献されています。
今後ともご健康で、益々のご活躍
をお祈りいたします。

プロフィール

菅根 順之

昭和三十一年二松學舎大学国
文学科卒業。三十五年日本大学
大学院文学研究科修士課程修了
(文学修士)。専門は中古文
学。四十三年、附属高校教諭を
経て二松學舎大学に着任。五十
七年、教授に就任し、附属図書
館長、教育開発センター長、二
松學舎評議員などを歴任。名誉
教授。

名誉学位

名誉学位の称号は、二松學
舎大学の教育研究の発展並
びに学術文化の発展に顕著
な貢献をした方々に授与さ
れます。

今年度、日本文学者、日本
学者のドナルド・キーン氏
と二松學舎大学大学院で中
国学を学んだ南禅寺派管長
の中村文峰氏に名誉学位が
授与され、昨年10月10日に
挙行された創立135周年
記念式典において発表され
ました。

ドナルド・キーン氏



ドナルド・
キーン氏は、
ニューヨーク
出身の日本文
学者・日本学
者で、文芸評
論家としても数多くの著作がありま
す。海外における日本文学、日本文
化研究の第一人者であり、二松學舎
大学でも、平成十六年に開催された
COEプログラムのシンポジウム
「東アジアにおける漢字文化活用の
現状と将来」において基調講演を行
いました。

キーン氏は、一九四九年にコロ
ンビア大学大学院東洋研究科博士課程
を修了し、同大学助教授、のちに教
授を経て、一九九二年、同大学の名
誉教授となりました。三島由紀夫作
品の翻訳や、芭蕉の「奥のほそ道」
をたどる旅をして英訳を出版するな
ど、欧米への日本文化の紹介・解説
者として果たした役割は大きく、菊
池寛賞や日本文学大賞、全米文芸評
論家賞など多くの
受賞経歴をお持ち
です。一九九三年
には、勲二等旭日
重光章、また、二
〇〇八年には、外
国出身の学術研究
家としては初めて
文化勲章を受章さ

ました。



れました。
東日本震災後に日本永住を決意
され、昨年三月に日本国籍を取得さ
れました。
このたびの称号授与は、氏の永年
にわたる研究業績に敬意を表しての
ものです。

中村文峰氏



中村文峰氏
は、昭和四十
四年から五十
間、二松學舎
大学大学院
で、漢詩を浜

隆一郎先生に、中国文学を内田泉之
助先生に学びました。

中村氏は、昭和二十七年に京都南
禅僧堂に入室、昭和四十七年には南
禅寺塔頭慈氏院住職となり、昭和五
十三年に虎溪山永保寺住職に就任。
現在は、臨済宗南禅寺派管長・南禅
寺住職を務められています。

また、平成十七年からは、二松學
舎創立百周年記念事業の一環として
漢詩文の振興を目的に発足した二松
詩文会の顧問も
務め、二度にわ
たり南禅寺を大
会の会場に提供
するなど、日本
の漢詩漢文の振
興に多大な貢献
をされています。



創立135周年記念 學術文化奨励賞受賞

久米 晋平氏



プロフィール

昭和五十三年、千葉県生まれ。
文学部七十回／平成十四年三月卒業、文学研究科博士後期課程四十四回／平成二十三年九月単位取得満期退学

學術文化の分野の振興に関して実績が顕著であり、かつ今後の活動が特に期待される個人に対し贈られる學術文化奨励賞。創立百三十五周年記念式典において、二松學舎大学院文学研究科中国学専攻非常勤助手研究員の久米晋平氏が受賞しました。

久米氏は、二松學舎大学院文学研究科で中国近世思想史・日本儒学について専攻し、大学院在学中から、日本漢文教育研究プログラムの研究員を務めました。また、現在は、文学研究科中国学専攻非常勤助手として、二松學舎大学の研究・教育活動に尽力されています。



久米氏は、平成二十二年に発表した論文『李二曲の「反身実践」思想―その四書解釈をめぐって―』で平

成二十三年度日本中国学会賞（哲学・思想部門）を受賞しました。
日本中国学会は、「中国に関する學術の研究」の全国的、総合的な学会で、一九六九年に設立された日本中国学会賞は、若手研究者の奨励を主な目的として、毎年「哲学思想部門」一名、「文学・語学部門」一名、計二名に授与されます。
久米氏は、これまで十分な研究が行われてこなかった清代初期の代表的な思想家、李二曲の思想の特質を丁寧に分析。その研究を一步進めたとして大きな評価を得、今後同分野での一層の活躍が期待されています。
この快挙により、今回の學術文化奨励賞の受賞となりました。

創立135周年記念 特別功勞賞受賞

末吉 榮三氏



プロフィール

大正十年、大阪府生まれ。
二松學舎専門学校十二回／昭和十六年十二月戦時繰り上げ卒業

學術文化の分野のほか、功績の分野・内容に応じて贈られる特別功勞賞を、二松學舎松苓会顧問の末吉榮三氏が受賞し、百三十五周年記念式典において、水戸英則理事長より、表彰状が授与されました。

末吉氏は、二松學舎専門学校を卒業後、徴兵を経て、昭和二十一年に復員。豊中市立第四中学校、府立花園高等学校など大阪府下で教鞭をとりました。大阪府教育委員会総務課主幹、同指導一課指導主事、府立八尾東高等学校教頭、同八尾東高等学校長を歴任し、昭和五十七年に定年退職。その後も、浪速中学校設立準備室長や浪速中学校副校長、上宮太

子高等学校講師の職に就き、教育界で大いに活躍されました。
一方で、長年にわたり松苓会活動に携わり、昭和二十三年松苓会近畿支部立上げに参加。奈良県支部長や近畿連絡協議会代表を、また、松苓会本部役員としては、幹事（近畿地区代表）や監事、副会長と要職を歴任し、現在も顧問を務められています。
さらに、昭和六十二年から平成三年までは、学校法人二松學舎監事に就任。松苓会支部・本部活動のみならず二松學舎の発展に対する尽力は、いずれも顕著であることから、今回の受賞となりました。





平成24年度 ホームカミングデー 開催!!

平成二十四年十一月三日（土・祝）、二松學舎大学九段キャンパスで、第8回ホームカミングデーが盛大に開催されました。

大学卒業生の皆さんに、後輩である学生の活躍する姿や現在の大学祭の様子を知っていただきたい、在学生との交流の機会を持っていただきたいの思いから、昨年度より創縁祭（大学祭）の時期にあわせての開催となりました。

十一月の開催二回目となる今回は、十四時三十分より、九段1号館十三階のファカルティー・ラウンジで懇親会が行われました。

大学卒業後、初めて九段1号館を訪れた卒業生の方々は、国会議事堂や武道館、スカイツリーなどを望む、眺めの素晴らしさに感嘆の声をあげていました。

開会宣言の後、神津賢一郎松苓会会長、渡辺和則二松學舎大学学長の挨拶があり、懇談会が始まりました。全国から集まった卒業生は、総勢百九十名。事前に申し込みをして参



神津会長挨拶



参加した第51回卒業生

加した卒業生のほか、今年度も、創縁祭を訪れて当日参加した卒業生も多く見かけられました。

名誉教授の先生方はじめ、大学の教職員も多数参加し、会場のあちらこちらで、ゼミナールの恩師を囲んだり、ゼミやサークルの先輩や後輩が輪になって、それぞれの近況や思い出ばなしに花を咲かせていました。最後に、磯水絵教授の指揮のもと、参加者全員で校歌を斉唱して散会しました。

ホームカミングデーに参加した卒業生の皆さんからは、「卒業してしまふと、なかなか母校を訪れる機会がないので、こういう催しはとてもうれしい。お世話になった先生や、懐かしい友人たちと再会できて本当に楽しかった」、「懐かしい顔と出

会えたり、恩師のお元氣な姿を見ることができてとてもよかったです。創縁祭との同時開催というのも良い」などの声が寄せられました。

《卒業生作品展》

毎年、ホームカミングデーに併せて、卒業生作品展開催しています。

今年度は、ホームカミングデー開催に先立つ十一月二日から三日間、九段1号館十一階の会議室を会場として開催されました。



磯教授の指揮で校歌斉唱

全国各地の卒業生から、書や写真、陶芸作品など三十点を超える出品があり、卒業生や在学生など多くの来場者で賑わい、好評を博しました。

また、今年度から、作品展会場にオーナー卒業生のコーナーも設けました。このコーナーは、旅館など、さまざまなサービスマネジメントを営む卒業生の方々の活躍を紹介するとともに、卒業生はじめ、たくさんの方々に、今後大いに利用していただきたいとの趣旨で始めたものです。卒業生作品展来場者からは、ぜひ利用したい等の声が寄せられました。

案内をお送りした卒業生

- ◇卒業後50年以上になる卒業生
- ◇卒業後50年、45年、40年、35年、30年、25年、20年、15年、10年、5年を迎える卒業生



- 第31回 (昭和38年3月)
- 第36回 (昭和43年3月)
- 第41回 (昭和48年3月)
- 第46回 (昭和53年3月)
- 第51回 (昭和58年3月)
- 第56回 (昭和63年3月)
- 第61回 (平成5年3月)
- 文第66回・政第4回 (平成10年3月)
- 文第71回・政第9回 (平成15年3月)
- 文第76回・政第14回 (平成20年3月)

ホームカミングデー

実行委員会

- 神河 秀春 (松苓会代表)
- 大地 武雄・廣田 克己



佐藤 修・五十嵐清 (大学代表)

- 小林 憲二・源川 進
- 山崎 正伸・磯 水絵
- 井上 和男・岡村 幸男
- 横谷 孝子・高林由美子
- 瀬尾 勝義・小町 邦明
- 高柳 幸男・大淵 俊明
- 鈴木 信子・菅原 義博
- 山口 洋子・西園 隆士
- 坂巻 茂紀・志村 孝
- 小西 明德・菅原 直子
- 馬淵 裕之・増田 光司
- 山崎 修・中原 敬二
- 室井 宏之・山口 朗
- 原 由来恵・山口 浩司
- 小林 利次 (34人)

卒業生の活動

●平成24年度 秀葉会(第38回卒)懇親会

平成二十四年度秀葉会(第38回卒同期会)の懇親会が、創縁祭(大学祭)、ホームカミングデーにあわせて、十一月三日(土・祝)十七時から、「北海道」飯田橋駅前店において開催されました。

物故者への黙祷を行い、沖繩から参加した金城健一さんの乾杯に始まり、参加者の近況報告、学生時代の思い出等、会の二時間が瞬く間に過ぎました。今年は岩手より参加の伊

藤慶子さんから、東日本大震災の被災地の復興の様子や、事務局の小林公雄さんから、本年、創立百三十五周年を迎えた大学の現状、長期ビジョン等の説明がありました。最後に、コール・エコーズ出身の東一雄さんの指揮により、全員で校歌を斉唱し、来年の再会を約して終了しました。

当日の参加者は次の通りです。(敬称略)

- 東 一雄 阿部 良一
- 阿部 洋子 生垣しげ子
- 伊藤 慶子 伊藤 淑子
- 石塚 法子 市川 友子
- 上田 善達 小野由紀子
- 小野田真弓 紙屋 正彰
- 金城 健一 小林 公雄
- 小林 憲二 佐藤 正機
- 齋藤 裕 酒井 淳吉
- 廣田 克己 松浦 順子
- 吉田 均

ホームカミングデーのみの参加者
上田 幸子 加藤早智子
小杉 絹代

ホームカミングデーにパンフレットを提供。
たつみ寛洋ホテル(象潟温泉) 佐藤 寛

松苓会活性化委員会の進捗状況

委員長 辻 将一



平成二十二年十二月に、松苓会本部から「松苓会活性化委員会」の設置に伴い、委員のひとりとして加わるよう要請されました。委員会のメンバーとして、廣田克己氏（当時神奈川支部長）、小林憲二氏（常任幹事）、齋藤祐一氏（幹事）、大地武雄氏（当時幹事長）、緑川佑介氏（当時事務局長）、そして小生（千葉県支部長）の六人でした。

委員会発足にあたり、まず、現状を総ざらいしてみることにしました。すると、次から次へとあらゆる面で問題点、改善点が浮かび上がってきました。

取りあえず、すぐに取り組みそうなる

のから検討することになりました。それ以降、足かけ三年、都合十二回にわたって、「松苓会活性化委員会」は白熱した議論を重ねることと相成りました。

その間、松苓会人事により、齋藤氏にかわって平野光治氏（神奈川支部長）、神河秀春氏（幹事長）、畠山幸治氏（前事務局長）、佐藤修氏（事務局）がメンバーに加わることとなりました。

新たに有力な人材を得たことにより、可能な限りのあらゆる具体策、方策をじっくりと検討し、過日、中間報告を答申しました。私たちは、それが決して机上の空論にならぬよう願うとともに、是非とも真摯に受け止め、一日も早い実現化を達成されることを望むものです。



『論語』の学校

RONGO ACADEMIA



十一月十七日、「論語」の学校—RONGO ACADEMIA—が、二松學舎大学九段1号館の中洲記念講堂で開催されました。

平成十七年に始まった「シンポジウム『論語』」の内容を刷新し、一般社会人を参加対象とした「『論語』の学校」。四回目となる今回

は、東京海上日動火災保険株式会社に相談役の樋口公啓氏を講演者に招き、「山田方谷と王安石の財政改革」というテーマで、二松學舎の創立者三島中洲の師でもある幕末の儒者、山田方谷の藩財政改革と、中国・北宋の政治家王安石による税制改革の比較についての講演が行われました。

文学部中国文学科、家井眞教授の講演「『論語』をどのように読むか」に続く、石川忠久顧問・名誉教授による恒例の「素読実践」では、参加者が声をそろえ、素読を行いました。

当日はあいにくの雨の中、三百名近い参加者を迎え、講演会の根強い人気が伺われました。

二松學舎大学

漢詩研究会

漢詩研究会は、最初に設立された、伝統ある漢詩の大学サークルです。

毎週火曜日と金曜日に会員が集まって、漢詩作を中心に、合評会、名詩鑑賞会などを実施しています。

また、毎年の大学祭では、柏キヤンパス内の詩碑、九段坂周辺の遺跡、夏目漱石の漢詩、中洲詩などを研究し、パネル発表し、好評を得ています。

二松詩文会から年四回発行される

『二松詩文』には、昭和五十七年の漢詩研究会創設以来、学生会員詩藻として作品が掲載されています。

これまで、四百名近くが漢詩作に励み、合宿や漢詩の生まれた中国を訪れるなどして、その技を磨いてきました。その

成果として、二松學舎大学主催の「全国学生・生徒漢詩コンクール」の優秀賞、最優秀賞にも入賞しています。



卒業生の紹介



国際政治経済学部 国際政治経済学科卒業
 岩立 祐一郎 (政経10回)
 (株)サンワ 営業部

社会人になって十年。私はずっと大切にしている言葉があります。それはゼミの先生が常に口にしていた「遊びの中から多くのことを学びなさい」ということです。机の上で学ぶことばかりが勉強ではない。社会に出て必要な力は行動力・実践力・即戦力。それを遊びの中から学びなさい、ということでした。何事も無駄なこととは

なく、いかにそこから自分が何かを学び力に変えられるか。大学生生活で学んだことは現在も大きな力となつて私を支えてくれています。私は入社以来、営業を続けています。人との繋がりで仕事が成り立つと言っても過言ではなく、まず「人」と接する事からスタートする毎日です。営業をしていますと多種多様の方々にお会いします。自分がどれだけの引き出しを持っているかが日々勝負になります。仕事の話ばかりではお客様の心を掴むことはできません。視野を広げ、幅広い分野の情報をキャッチし、お客様とのコミュニケーションツールとして役立てるようにしています。また、お客

様との距離感も大切にしています。私の行動に対する反応は人それぞれです。お客様と気持ち良く仕事が出るよう、どう付き合っていくかを接していく中から瞬時に判断し距離感を考え仕事を進めています。仕事をスムーズにこなしていくことも大切ですが、目の前の形となるものばかりを重要視せず心の通いあいを大切にすることで仕事がうまくいくことも多くあります。人との繋がりの大切さを学んだのも恩師との出会い、友人との楽しい日々からです。これからも二松學舎で学んだことを胸に刻み、走り続けていきたいと思っています。

昨年十一月二十四日に表彰式が開催され、最優秀賞、優秀賞に表彰状と副賞が授与されました。



文学部 国文学科卒業
 池田 夏希 (77回)
 東日本ハウス(株) 人事部

私は東日本ハウスというハウスメーカーに入社し、もうすぐ5年になります。入社した時は総務部への配属でしたが、現在は人事部へ異動となり、主に給与の社会保険に関する業務を行っています。私の業務は主に社内の方との関わりが多いですが、人事部という事もあり、就職活動中の学生と電話やイベント等で話す機会もあります。

その際に敬語の使い方、話し方や面接時の態度等で、損をしていると感じる学生もいます。その時思い出すのは、大学でのキャリア教育です。当時は就職活動が不安で、面接時の椅子の座り方から受け答え、入室・退室の仕方、エントリースhirtや履書の書き方等、必死で身に付けようとしていましたが、他大学では就職活動への支援を積極的に行っていない場合もあり、学生の中でもかなりの差がついていると感じます。私の会社は、一生に一度の買い物とも言われる、住宅という大きな商品を扱っています。住宅は完成品ではなく、お客様の人生設計を中心として一緒に作り上げるものだから

こそ、人間性が問われる産業です。その人間性を磨く為、我社では多くの研修を行い、育てるといふ部分を大事にしています。社長は常に「後輩・部下に厳しく教育しなければならぬが、その厳しさの倍の愛情を持って接する事が大事だ」と社員一人一人の事を考えています。大学のキャリア教育も、学生の皆さん一人一人の事を考え、自身の持っている良い点をアピール出来る様育ててくれたのだと、今になって感じています。規律・礼儀といった部分は、社会人になっても必要となるので、二松學舎を卒業される皆さんが大学で学んだ事を忘れず、活かしてくれる事を願っています。

日中国交正常化四十周年と東京国立博物館百四十周年を記念し、平成二十五年一月二十二日から三月三日まで特別展「書聖王羲之」が開催されました。

二松學舎大学では、創立百三十五周年を記念し、在学生を対象に「特別展『書聖 王羲之』題字書道コンクール」を開催。最優秀賞に選ばれた原義治さんの作品が、特別展「書聖 王羲之」の主催者に推薦され、招待券と大学生入場券に採用されました。



松苓会各支部活動報告

平成24年8月～25年2月

秋田県支部

平成24年8月18日
支部長 三浦 基

平成24年度秋田県支部総会は、平成24年8月18日(土)午後6時から秋田駅前のホテルメトロポリタン秋田を会場に開催された。例年教育関係者の参加が多いことから夏季休業中の開催となっている。

13校教育機関、38年の教員生活、それぞれに思いが残る。定年退職後は時間もできるだろうと思っていたのだが、青少年育成秋田県民会議会長、秋田県高校PTA連合会事務局長を、恩返しのため引き受けた。ことわる理由がみつからない。改革の日々は続く。退職したらやるよと言っていたボーイスカウト秋田県連盟事務局長。三団体ともに、全



「ホテルメトロポリタン秋田」にて

国、東北、全県の年間活動計画が決まっている。予定が重なる。そこに高校演劇が割り込む。没落地主の跡取り息子。地域の冠婚葬祭。休日がない。これが私の生き方なのだろう。感謝。

平成24年度秋田県支部総会出席者

- 野口 養吉(専門17)
- 佐藤 寛(大学38)
- 鈴木 隆博(大学54)
- 樽田 雪子(大学56)
- 三浦 基(支部長・大学41)
- 近藤 和裕(副支部長・大学41)
- 奥山 陽子(監査・大学46)
- 永井しおり(幹事・大学54)

宮崎県支部

平成24年8月25日
支部長 宮崎 宣幸

8月25日(土)宮崎市「雲の平」にて宮崎県支部総会を行いました。

案内状を41通出して、返事が来たのは10通余りでした。出席の返事は、全員で4名でした。渡辺学長と廣田松苓会副会長がお見えになるので大変申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

初めに、学長から大学の近況や方針をお聞きし、廣田副会長から松苓



「雲の平」にて

会の様子をお話し頂きました。ワインとフレンチを頂きながら、大学の現状や松苓会の各県の状況をお聞きし、こちらからも、宮崎県の松苓会の状況を説明しました。

参加者が少なく恐縮ばかりしていましたが、副会長さんから、「重点地区を指定して、強力に支部を推進していくことも考えられます」と心強いお言葉も頂きました。何度案内状を出しても、返事すら来ない会員が半数以上います。以前から6、7名の参加しかなく、今後何とかして参加意欲を高めていきたいと思っています。

大分県支部

平成24年8月25日
支部長 加茂 忍

八月二十五日(土) 別府市亀川「かみ川」にて開催 参加七名 五月二十三日に逝去された 伊藤公祥(文41)君に黙祷。六月に開催された松苓会総会報告の後、参加者の近況に移り、楽しい一時を過ごした。平

野芳彦氏(専14)九十歳となり毎日八千歩を目標にしっかり歩いて居ります。月二回、朝六時からの座禅にも参加。是本信義氏(作家)母堂を亡くされ畔津氏に大変お世話になったとの由。畔津真知子氏(文34)多忙で少しヤツレタ様子。阿部誠文氏(文36)昨年末で病気とも縁が切れた様子……忙しく過ごして居ます。九月で古稀を迎え、自分がやって来た仕事の整理を始めたいと想って居ります。永淵道彦氏(文36)老母一人・介護頑張って居ります。定年迄あと二年半、今年から大学院の講義も担当頑張ってます。加茂忍氏(文36)六月東京に同期会16名集まる。45年ぶりの人も居り、名前と顔一致せず。二年後に又、集まる約束で散会。月日の経つのは早いものです。

甲斐啓一郎氏(文52)杵築高等学校の勤務三年経過して由布高校に転勤いたしました。通勤時間が五十分から二十五分になり楽になりました。由布高校では特活主任というところで毎日忙しく、大分県松苓会二年度の幹事・事務局長です。

松苓会大分県支部総会



別府市亀川「かみ川」にて

北海道支部

平成24年8月25日
支部長 増井 義昭

九月の半ばを過ぎて、ようやく秋の空が見え始めた札幌では有りますが、まだまだ三十度内外の気温を維持しております。明治の時より百三十年の記録を確かめてもこの様な事は無く、高温に弱い北海道人には、災害と言うべきか、大変な苦勞を強いられる事と相成っております。

此の様な中での松苓会北海道支部及び会員の近況をお知らせしたいと思います。

八月二十五日、十七時三十分より、平成二十四年度北海道支部総会が開催されました。会場は当然関東以北最大の歓楽街ススキノです。「旬と焼肉 さくらぎ」と言う事で出席者の腹積もり決して誤ったものでは有りませんでした。当日も北海道人にしては身体に良く無い暑さの



「旬と焼肉 さくらぎ」にて

中での総会。山崎事務局長からの、決算報告及び新年度予算案その他の議事を恙無く、早速のスピードを以て終了し、懇親会の乾杯へとこぎつけたのであります。

本部からの御来賓として、松苓会会長神津賢二郎氏を迎えたと有つて、会員には当初緊張が見られましたがそこは同窓生、いつの間にか和気あいあいと、先輩後輩の顔はただただ朱く朱く成るばかりで有りました。

会長よりの御挨拶にて、松苓会の近況報告を受け、会員一同、二松學舎の卒業生、そして松苓会員で有る事を、改めて胸に刻み込んだ次第で有ります。

総会、懇親会も終了とはなりませんが、そこはススキノ時間、未だまだ宵の口と申しまして、恒例の二次会へと出発をした迄は良かったのですが、最近の二次会スタイルが大きく変わりました。松苓会風と言うのか、はたまた事務局長が御歳を召されたのか、行った所は洋風甘味処です。それを食しながら、誰かが一言「酒ばかりでは身体に悪い。たまにはこういう物でなければ」と言い、全員が完食しました。

北海道支部は、道南分会、道東分会の二分会を擁しています。総会・分会に出席しようとしても、車で三時間はかかる広さを有しています。そのため、出席率としては小さいもので有りますが、欠席者からはその

都度丁寧な欠席理由と、克明な近況報告が寄せられます。そのすばらしい通信を出席者全員で拝読させて頂くのですが、その時には、もう欠席者は一人もいません。広さ、そして距離をも感じさせない同窓の心が脈々と続けられているのです。「これが二松學舎」と思うのは私だけでは無いでしょう。そして、これが二松學舎の財産なのだろうと感じております。

平成25年新年会

平成25年1月11日(金)札幌ススキノの「メルキールホテル札幌」において、いつにない極寒(マイナス11度)の中、なごやかに開催されました。

(参加者)

永田 哲之(65回・伊達市)



「メルキールホテル札幌」にて

- 富永 貴之(65回・千歳市)
- 若松 顕仁(56回・千歳市)
- 吉野 泰正(55回・滝川市)
- 荒井 到(51回・函館市)
- 不動 和則(43回・恵庭市)
- 増井 義昭(39回・札幌市)
- 山崎 郁紀(36回・札幌市)

道東分会

平成24年度、北海道支部道東分会総会は、9月29日(土)、釧路市栄町「ふく亭」釧路本店で2年ぶりに開催されました。

今回は、いつも参加してくれている根室の伊藤夫妻や米川先輩の顔が見られず、さびしい会になりましたが、その替わりに弟子屈から釧路の中学校に転任してきた眞野さんが始めて参加され楽しい会となりました。

会場の「ふく亭」は、老舗の料亭だけあって落ちついた雰囲気の高級感漂う店で、料理も中々のものでした。二次会は眞野さんの紹介で、釧路らしく「つぶ焼きの専門店」へ。メニューはつぶ焼とラーメンのみ。これで30席程がほぼ満席になるのだから不思議である。

それにしても釧路は遠い、札幌から高速道路を飛ばして350キロ約6時間。一度高速道路に入ってしまったらトイレはあっても売店一つない。結局、白糠まで昼食もとれず。帰路は新得まで一般道路を走ること

にしました。
来年はいつものように沢山の皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

(道東分会総会参加者・敬称略)
川谷 文雄 (39回・道東分会長)
五十嵐 猛 (56回・道東分会幹事)
眞野 清憲 (60回)
増井 義昭 (39回・支部長)
山崎 郁紀 (36回・支部事務局長)



「ふく亭」釧路本店

道南分会

平成24年度、北海道支部道南分会総会は、10月6日(土)、函館市五稜郭「しまうた」で開催されました。

秋晴れの好天に恵まれ、函館山からは、下北半島も望め気持ち良い日和でした。札幌から260キロの長途を癒すべく、いつものように市営谷地頭温泉に入浴し、駅前ホテルから市電に乗って会場へ。

会場の「しまうた」は、奥尻島出身の店主が新鮮な海の幸でんこ盛で迎えてくれる。吉川夫妻お気に入りのお店で今回も期待を裏切らない内容でした。

会は田島分会長の挨拶も早々に、いつもの喧しい函館弁の応酬で盛り上がりました。二次会は、皆さん馴染みのスナックで歌合戦、皆非常にうまい。ここでも他のお客さんに荒井氏が出演する寄席のチケットを皆で押売をする。函館ならではの光景でありました。函館の皆さん楽しい一夜を今年もありがとう。

(道南分会総会参加者・敬称略)

南部 知正 (37回・分会顧問)
田島 基義 (38回・分会長)
開原 正信 (39回)
荒井 到 (51回・荒到夢形・講釈師)
吉川 肇 (59回・分会幹事)
吉川 真理絵 (60回・分会幹事)
吉野 泰正 (55回)
増井 義昭 (39回・支部長)
山崎 郁紀 (36回・支部事務局長)



函館市五稜郭「しまうた」にて

静岡県支部

平成24年10月21日
支部長 山本 昇平

厳しい残暑もようやく治まった穏やかな秋晴れの十月二十一日(日)午後三時からJ.R静岡駅近くにある「東海軒会館」で、平成二十四年度松苓会静岡県支部定期総会が行われた。

松苓会本部から神河秀春幹事長、神奈川県から平野光治支部長を迎え、参加者は十名。例年より少ない人数であったが、かえって中身の濃いしかも和気藹々とした雰囲気の中で進んだ。司会進行は昨年度に引き続き中村且之助氏が担当、全員が発言できるよう配慮された。議事内容は①支部長挨拶②来賓(神河幹事長、平野神奈川県支部長)挨拶③平成二十三年度事業報告④平成二十三年度会計報告⑤二松學舎創立百三十五周年記念行事報告⑥亀田鵬斎の漢詩「題北越石瀨棚橋樸民庭園雙松」に関する望月昇氏による解説、鑑賞

⑦その他(懸案事項・課題)であった。特に⑥及び⑦については話題沸騰、大いに盛り上がり、総会終了予定時刻を大幅に超してしまった。特に書道教授だった金子清超先生の書に対する姿勢、書道教育、書道展やコンクールに関する見識の高さ、現在J.R飯田橋駅西口付近に掲げられている大学名入り看板文字が清超先生の

字であることなどが話題に上がった。

なお、総会の席上、松苓会静岡県支部の懸案事項や課題も浮かび上がり検討した。まず総会・懇親会の日程や参加費については一人でも多くの会員参加促進のため(a)残暑の厳しい時は避けたいこと(b)開始時刻を早めること(c)不況の世の中参加費はできるだけ抑えたいことなどの工夫をする。検討の結果、来年度の県支部総会・懇親会は、十月の第三日曜日(十月二十日)午前十一時から総会、十二時から二時まで懇親会。参加費は二千五百円程度に設定。会場はローテーション通り東部地区で設定することとした。

次に、平成元年度創刊、以降毎年度発行して来た「県支部報」について、来年度で四半世紀(二十五年)経つのを契機に「静岡県支部報二十五年の歩み」(仮称)としてまとめたかどうか、検討した。会員相互の情報交換や連携を図る上で支部報の持つ意義には大なるものがあり、そ



「東海軒会館」にて

の歴史をまとめておくことはたいへん意義深いとの結論に達したので、早速編集方針を検討し、平成二十五年度中には刊行したい。

松茶会静岡岡県支部の会員数は現在約四百六十名余り、県支部年会費（二千元）納入者は例年四十名余り、そして県支部総会・懇親会出席者は例年十数名である。この実態を見て「大学の同窓会、そして大学同窓会県支部の活性化とはいったい何だろう？」ということを変更して想った秋の一日だった。

神奈川県支部

平成24年10月28日
平成25年1月13日
支部長 平野 光治

文学歴史探訪

平成24年10月28日（日）、湘南地区長 森田 亨様のご計画により、松茶会神奈川県支部文学歴史探訪が開催されました。松茶会本部 佐藤



頼朝の墓近くにて

修様をお迎えし、12名の参加を得ました。

鎌倉駅西口時計台から段葛、鶴岡八幡宮、白旗神社、源頼朝の墓、大江広元の墓、毛利季光の墓、島津忠久の墓、鎌倉国宝館、鎌倉八幡宮大銀杏・本殿と歴史の跡を散策し、昼食に新蕎麦をいただき、心地よい文学歴史探訪となりました。

流鏑馬馬場を歩み、畠山重忠邸跡にて歴史を学び、頼朝と側近の遺霊を偲ぶ等、まさに歴史探訪そのものでした。

鎌倉国宝館の特別展『古都鎌倉と武家文化』では源頼朝坐像や栄西著作「喫茶養生記」を見て、興味をかきたてられ、大銀杏の若芽の芽吹きに驚嘆し、結婚式直前のお参りと思われるお二人のあふれる笑顔に、幸せを感じる事ができました。何度も訪れる鎌倉ではありますが、いつも新しい体験のできる、奥深い鎌倉のすばらしさを味わいました。

新年賀詞交歓会

平成25年1月13日（日）、横浜中華街、重慶飯店別館にて、平成25年度松茶会神奈川県支部賀詞交歓会が開催されました。松茶会本部事務局 佐藤 修様、東京支部事務局 長神河 秀春様、東京支部常任幹事 高橋慶扇 様、静岡県支部支部長 山本昇平様、神奈川県支部活動を長くご支援下さっている東京支部顧問 木村正雄様をお迎えし、支部会員、賛助会員、総



「重慶飯店別館」にて

人数17名の参加となりました。支部長 挨拶後、佐藤 修様、神河秀春様、山本昇平様、木村正雄様より、ご挨拶や各々の支部活動についての

お話、神奈川県支部への応援の言葉をいただきました。支部活動の今後をいいただきました。示唆をいただきましたこと、総会のみならず、賀詞交歓会にもご臨席を賜りましたことに、心よりお礼申し上げます。その後、会員の皆様よりご挨拶や近況報告をいただきました。お一人お一人の目標を持った生き方に感銘し、新年のスタートをきるにあたり、あらためて自己を見つめることが出来ました。閉会后、有志により「関帝廟」参拝を行いました。お線香の大きさに驚くとともに、5香炉にそれぞれ願う内容があり、金紙を金炉で燃やすなど、新しい知識を得る機会ともなりました。神奈川県支部前支部長（現松茶会本部副会長） 廣田克己様の長きにわたる他支部との交流や会員への働きかけが実を結び、副

宮城県支部

平成24年12月1日
支部長 千葉 仁

場所 街道青葉（仙台市）
参加者 9名

大震災の年の執るものも手につかずと違って、幾分落ち着いた顔合わせが出来ました。会員の被害状況と現況の確認、会員からの激励・絆の強化等に話題が集中。

支部長挨拶で、母校で学んだ専門・学問・教育という原点・基礎を拡大・発展させている多くの会員の活動への敬意、会員同士の縦横の繋がりが、絆をより大事にされるよう期待、大震災が大きく意識させる契機となり、皆が被災者等を第一に懸念され、電話・信書等で結果・親交を深められたことへの感謝のことがばがありました。

創立135周年記念式典の概略を報告し、特に都心集中の教育環境の整備、創立以来の教育機軸（理念）の再確認（現代的解釈）、新しい



「街道青葉」にて

2020 プランの骨子の紹介。養老孟司先生の示唆に富むご講演、論語の「朝聞道夕死可」を引用され、古典は繰り返し、違う方向から自由に考え、物事を柔軟に捉えることができる宝と、「文系脳の大切さ」を強調され、また日本語は漢字の音読・訓読を使い分ける、脳の複数の部位を使い、言語活動の情報量が他の言語より遥かに多い（世界の言語は視覚言語中心）、漢字の音訓使用により脳がより豊かに活動する、等のお話を拝聴し、漢字文化を専門とする者への応援・激励と受取ることができました。（以上は紹介）。

総会では、①大学の情報・地方試験（仙台で）の実施、②会員名簿の確認・掘起こし、③議事は例のごとし（報告・質疑・その他）。

情報交換では、①大震災の県内支部会員の被害状況の概要、②大学創立一三五周年記念式典（支部長参加）の紹介、③会員消息。会員の研究実績、活動状況、高校書道界の状況、その他の報告。『大人の論語』・『都心で学ぼう！ 国際政治経済』『二松詩文』等の資料の紹介・回覧。

懇親・懇談会では、各人の近況報告、情報交換。大学で学んだことを基礎に自分なりに発展させ自己の道を開拓された五十嵐伸治氏の『大正宗教小説の流行』（共著）、その他の紹介、また多くの会員が自己の道を発展させていることに関心が寄せられました。若い会員の参加が欲しいと、異口同音の声が聞かれました。漢詩作成の紹介も興味を引きました。盛り上がり過ぎて3時間がとても短く感じられました。

（参加者）（ ）は卒業回数
阿部和夫（34）・犬飼公之（34）
菊池純（42）・五十嵐伸治（44）
二上久芳（44）・佐々木啓充（51）
高橋和巳（51）・田淵龍二（57）
千葉 仁（27）

香川県支部

平成25年1月5日
支部長 大西 邦美

香川県支部は一月五日（土）、高松東急インにおいて平成二十四年度総会を開きました。

出席者は県内同窓生9名に加えて、来賓として二松學舎大学渡辺学長、松苓会廣田副会長の両先生にもご出席いただきました。
総会では大西邦美支部長より二松



「高松東急イン」にて

學舎大学を中心とする法人の様子も含めた挨拶があり、続いて来賓の両先生から大学の現状と展望、松苓会の取り組み等についてお話がありました。

その後、昨年度支部活動や収支決算の報告、次年度活動案、支部の規約改正、役員改選案がすべて満場一致で承認されました。

次年度活動案の中心は、支部活動の活性化や会員の結束を強める方策についてで、建設的な意見交換が行われました。具体的には会員の研究活動や個展情報を積極的に発信、周知することで、会員相互の関係を密にし帰属意識を高めていこうというものです。

総会に引き続き続いての懇親会では参加者近況の報告もありました。
特に県内を巡って拓本を採取し調査研究と発表されている方や書道展同人として活動されている方の話を伺い、大学卒業後も変わらず研究・

創作活動に精励されている様子に感動するとともに、大いに自己をふり返り反省もしました。
恩師やゼミなど共通の話題に花が咲き、和気藹々とした雰囲気の中、懇親会を締めくくりました。

群馬県支部

平成25年1月26日
支部長 新井 喜義

一月二十六日、今年度の支部総会が高崎の暢神荘で行われた。会員の出席者十八名に大学から学長の渡辺先生、本部の廣田副会長にお出でいただき、さらに本年は茨城県出身の岡野氏（群馬医療福祉大学勤務）が飛び入りで参加してくださった。

会は、まず新井支部長の挨拶に始まり、渡辺学長からは大学の現状と将来への展望のお話があり、特に卒業生の教員採用試験と入学試験の受験者が増えているとのことであった。

また、廣田副会長からは、松苓会本部の財務状況の報告があり、その中で広報活動として発行している「松苓会報」の充実と、卒業生の中で終身会費を納めていない会員に対して会費の納入をお願いしたい旨のお話があった。なお、終身会費の未納者については、まだ周知徹底してない面があるので、今後本部では会報で、支部でも広報活動をしてほしいということでした。



高崎の暢神荘にて

そのあと、議事に入り、行事報告、会計報告、行事計画、予算案等、特に問題なく承認された。行事の中で、前年度行った「書展」について、本年度も第二回目を実施することになった。

総会終了後、中里昌之氏（三十六回生）が「日本人の死生観」と題して講演を行ったが、総会が長引いてしまった関係で、講演の時間が短くなってしまったのが残念であった。

新年会は六時から始まり、乾杯、歓談とつづき、近況報告などもあり、出席者それぞれが旧交を温めあえた有意義な時間となった。

とりわけ、今年は比較的若い会員が参加してくれたので将来に向けて明るい展望が見えてきた感じを受けた。

埼玉県支部

平成25年1月27日
支部長 町田 哲夫

埼玉支部総会並びに懇親会は、一月二十七日（日）、渡辺和則学長、廣田克己松苓会副会長のご出席をいただき、小江戸川越・東武ホテルを会場に開催しました。

渡辺和則学長のご挨拶では、昨年、創立百三十五周年を迎えた二松學舎大学の長期ビジョン「N'2020 Plan」を紹介していたいただき、未来に飛翔する二松學舎の発展に心躍る思いを抱きました。また、廣田克己副会長からは松苓会本部の現状と課題をお話いただきとともに、卒業生の終身会員手続きにも触れていただきました。

総会は青木一弥氏の司会進行により、活動報告・決算報告の審議、承認とスムーズに展開されました。

総会に続き、中山大輔氏の司会進行により懇親会が行われました。木村誠次前支部長の乾杯のご発声の後、終始和やかに会員相互の懇親が図られました。参加会員の近況報告では、埼玉という地域性もあり、大学関係職員の会員も多く、二松學舎大学の現状（教員養成、学生募集の状況、ホームカミングデーの開催など）が紹介され、在学中の話題に花が咲き、時の経つのを忘れるほどでした。



「川越・東武ホテル」にて

今回、埼玉への転居により、初めて参加された専門学校18回卒の浅井氏、卒業後の勤務校で二松學舎出身の上司とめぐり合い上司とともに参加された文79回卒の駒井氏や、小二種プログラムを受講し、今年度埼玉県小学校教員採用試験に合格した塩澤氏（今回は体調不良のため急遽欠席）など、若手の会員の参加もあり、今後の会の運営に期待の持てる開催となりました。

近畿地区

平成25年2月24日
事務局長 斉藤 衛

近畿支部が組織されて65年になります。その各々が運営の活性化を唱えて久しくなります。「交流と親交と研鑽」を通して母校の隆盛につなげてゆく大義を果たしてゆくために、年々英知を傾け努力するものの、その成果は常に来年こそはという課題に終わります。今年も奈良県

支部長のはからいで薬師寺拝観と恒例の互礼会を企画しました。

季節は「寒椿」を愛でるにやや冷えを感じる二月二十四日（日）薬師寺に馳せ集う二松學人十三名。先ずは写経に身を浄め、自行化他の境に立ち、今は僧籍の装い新たな三十九期の辻一氏のご案内で見学研鑽交流の一日が始まりました。冷気一入寒風舞う中に梅の香が漂う。季節交響に響くまほろばの風情を楽しむ。解体工事中の東塔（国宝）見学はみんなが再び拝することの出来ない見聞であり、七階の高さまで組まれた足場階段をヘルメット姿に雄々しく早や卒寿にあるものが仲間とともに頂を極めたのは天晴れであった。

大阪ミナミの「鳥よし本店」に移動して、末吉代表、渡辺学長の挨拶と大地先生（松苓会副会長）の乾杯の発声で「新年を迎えるの抱負」が活き活きと語られました。

「鳥よし本店」にて



「薬師寺大講堂」にて

「文化・功労賞」受賞

山田 勝久

昨年十一月三日、文化の日に、大阪府柏原市の「文化・功労賞」を受賞しました。この賞は、長い間、柏原市の教育部門に貢献した業績が認められ授与されるものです。

私は、昭和四十一年三月に文学部を卒業。同四十九年修士、同五二年博士課程単位取得満期退学と、二松學舎で九年間、内田泉之助教授のもとで学びました。その後、跡見学園女子短期大学で教鞭を執り、昭和五十三年四月からは、北海道教育大学に採用され、同六十四年に教授。平成四年からは大阪教育大学に配置転換となり、教授、大学院主任教授、

附属池田中学校校長、学長補佐となり、平成二十四年定年退職しました。

退職後は、私立甲子園大学教授、機構長、副学長として三年間奉職（平成二十四年三月まで）。平成二十四年四月からは、二松學舎大学非常勤講師、NHK文化センター柏教室・名古屋教室・西宮教室の「シルクロード」を担当し現在に至っています。

また、柏原市、八尾市、橿原市および兵庫県の成人学校、公民館講座を今も担当しており、柏原市公民館運営協議会の座長も勤めています。平成十六年十一月三日、大阪府池田市から教育文化に貢献したことが評価され、「感謝状」が授与されています。

寄贈図書紹介

平成二十四年九月以降の寄贈図書は、次のとおりです。

図書

- 『岡山言葉全国比較』五 岸元史明著 出版社 国文学研究所（二〇〇〇円）
- 『岡山古代地名探検』英田郡（美作市）上 岸元史明著 出版社 国文学研究所（二〇〇〇円）
- 『陽明学のすすめ』Ⅳ 深澤賢治著 出版社 明德出版社（二八九〇円）

雑誌

- 季刊「知足」二十一〜二十四 中斎塾フォーラム発行（発行人 深澤賢治）※会員購読

寄附者芳名

平成二十四年十月一日から同二十五年二月末日までにご寄附頂いた方のご芳名を掲載します（敬称略）。ご協力に心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

- 20口 小池 良雄（専11）金輪 末良（文25）
 - 10口 相沢 弘三（専7）國田 満（専14）
 - 佐々木 榮一（専18）岩佐 稔（専20）
 - 河本 岡文（文26）井上 興正（文27）
 - 神津賢一郎（文27）大地 武雄（博10）
 - 米田 愛子（文36）廣田 克己（文38）
 - 早崎 静子（文41）國安久美子（文44）
 - 広川 尚子（文46）神河 秀春（文47）
 - 林 圭子（文51）蛭海 悠司（文51）
 - 関口 和則（文56）畠山 宏良（文56）
 - 早坂 秀樹（文56）宮森 庸子（文56）
 - 木村 和代（文61）
 - 5口 新井 喜義（文37）巢山 雅子（文41）
 - 山田 恭子（文41）中條 桂子（文51）
 - 安岡 定子（文53）
 - 1口 佐藤 修（文41）本田 和成（文42）
- （二口 千円）

お願い

◎終身会費手続き ◎寄付金
よろしくご協力ください。

表紙写真

大学九段校舎1号館西側写真。さくらは旧校舎時代からのもので、毎年きれいな花を咲かせてくれます。二松學舎大学では千代田区のさくら祭りに参加しており、レストランの特別営業も行っています。お花見帰りにお立ちよりください。

編集後記

2期目の神津会長がめざす松苓会改革の目玉である活性化委員会が答申をまとめた。発足以来3年に及ぶ検討であり、松苓会のあり方についてかなり突っ込んだ内容になっている。既に中間答申という形で一部の答申があり、具体的な取り組みが始まっているが、この答申が松苓会の今後を方向づけることになろう。各機関や支部においても大いに議論してほしい。

二松學舎松苓会報 No.48

創発編住電振替口座印
刊行集所話振替口座刷
昭和62年12月1日
平成25年3月19日
二松學舎松苓会
〒102-8336 東京都千代田区三番町 6-16
03-3261-7408
00180-5-160343
（掛）サンセイ
〒162-0818 東京都新宿区築地町 19-4
TEL. 03-5227-8333